

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	3 月	13 日	記入者	饗庭美波子	
調査者名	饗庭	石井	大谷	垣内	久門	鶴田

文化財名	首子古墳群					
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()	
指定年月日	1981年(昭和56)3月17日					
所在地	葛城市當麻					
所有者 管理者	国(財務省)、葛城市					
員数	4					
時代区分	古墳時代後期(6世紀)					
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)		
案内板の状況	なし					
公開	自由					
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い	
	補足 ()					
当面の課題	特になし。首子1号・4号・5号・8号墳が県指定史跡であり、1号・4号・8号墳は国、5号墳は葛城市が所有者。管理は、国へ許可をとった上で全て葛城市が行っている。草が生い茂っているが、人が自由に見学できる程度には整えられている。					
今後の課題	大半が国の所有となっている等の問題から、案内板や駐車場の設置は難しいとのこと(葛城市歴史博物館より)。また、5号墳のある道路沿いに旧當麻町が製作した説明板があるが、情報が古い。1981年(昭和56)当初県の指定を同時に受けたが、後に修正され別個の指定となった7号墳(只塚廃寺)の再調査が行われる前の内容で、現状に即していないため、修正を望みたい。					
その他 (由緒など)	古くから「首子七塚」と呼ばれた地域。組合式家形石棺の出土や、木棺を直葬した形跡がみられること等が特徴的。被葬者は不明だが、只塚廃寺と當麻寺に挟まれている立地上、後の当麻氏に繋がる人々が葬られていた可能性があるのではとのこと(葛城市歴史博物館より)。また現地は、登録名「二上山が眺望できる首子古墳群周辺」で2013年(平成25)に奈良県景観資産の登録を受けている。					
コメント	二上山が目前に聳え立ち、當麻寺からもほど近い立地でありながら、案内板がなく、国所有の1号・4号・8号墳については、これが県指定史跡であることを指し示す表記もないため、知らなければ素通りしてしまうような状況なのが大変残念。せめて、5号墳の説明板だけでも修正し、訪れる人にわかりやすいものとなることを願ってやまない。					

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2021 年	3 月	13 日	記入者	饗庭美波子	
調査者名	饗庭	石井	大谷	垣内	久門	鶴田

文化財名	首子古墳群
------	-------

1号墳	4号墳
-----	-----



5号墳外観	5号墳上から二上山方向
-------	-------------



8号墳	旧當麻町製作の説明板
-----	------------



首子塚

首子古墳群は、當麻町大字當麻から大字染野にかけて分布する古墳群で、「首子七塚」と称されてきました。昭和五十一年、五十二年の調査では、十基の古墳が存在していたことが判明しています。一号墳は櫛山古墳、二号墳の墳丘は削平されていましたが、丘尾を切断する形で溝が半円形にめぐり、溝内から多数の円筒埴輪・家形埴輪・須恵器が出土しました。三号、四号墳は方墳で、三号墳では木棺を直葬し、四号墳では横穴式石室を主体としていました。群中最大の五号墳は帆立貝式前方後円墳で円筒埴輪列をもち、未調査の七号墳は一辺十八メートルの方墳、八号墳は径約二十五メートルの円墳で横穴式石室を主体としますが、石室内には凝灰岩製の石棺底石が残っていました。この石室は中世に再利用されていることが判明しています。

首子古墳群